

「新型コロナウイルス感染症の影響下における学校間の連携

—中学校区をはじめとした小中合同学習会の実践を事例として—



## 1. 主題設定の理由

1 部会（佐倉市・酒々井町）特別支援教育部では、例年 2 回、1 1 月上旬には小中合同野外学習会を、1 月下旬には小中合同学習発表会を実施してきた。

1 1 月上旬に行われる小中合同野外学習会では、中学校 1 2 校、小学校 2 5 校を地区別によって 5 つのブロックに区切り、小中学生の交流を図るため、過去には「船橋アンデルセン公園」や「千葉市動物公園」、「草ぶえの丘（佐倉市）」等への校外学習が行われていた。それぞれのブロックごとに夏季休業中から準備が行われており、中学生を主にリーダーとして小中学生混合による班を単位とする班別行動を伴う校外学習である。ブロックごとに創意工夫がされており、学校ごとに電車や路線バスなどの公共交通機関を使って現地に到着をする計画を立てて、現地までの行き方や運賃等を事前にきめ細かく調べたブロックもあった。

1 月下旬に行われる小中合同学習発表会では、佐倉市と酒々井町とで大きく 2 分して、主に音楽ホール等において各学校の学習の成果を発表をしたり、小学校 6 年生と中学校 3 年生に卒業を祝ったりする会である。そこでは、各学校のふだんの学習の成果や卒業生へのはなむけのメッセージ、卒業生一人一人の抱負を発表する場として充実した場となっており、平成 2 9 年度からは「青い麦の子ふれあい事業」として、振興大会を兼ねて開催してきた。

しかし、令和 2 年度から 3 年度にかけて、1 部会特別支援教育研究部の活動において新型コロナウイルス感染拡大のために多くの制約が課せられた。上述の学習会等も行われない状況下になり、さらに例年 3 回程度あった 1 部会内における小中学校の教職員に向けた研修会が中止になるなど、子供たちの学習の成果を発表する機会が失われたばかりではなく、教職員間の情報の共有や連携の機会が減った。

それから翌年の令和 4 年度では、従来の活動内容を見直す中で再び学習会を行う方向へとなり、次の 5 点が主な変更点である。(1) 中学校 1 2 校、小学校 2 5 校の地区別に分けた 5 つのブロックではなく、中学校区ごとの開催となったこと (2) Teams（オンライン）の「一部会特別支援教育研究部チャンネル」の活用の本格化 (3) 中学校区ごとの実態に即して開催日時の期間が比較的緩やかとなったこと (4) 事前に中学校区ごとでの話し合いを十分に行い、調整を図ること (5) 実施計画・報告書が統一され中学校区ごとにデータで提出となったことである。

新型コロナウイルス感染症の影響下で多くの制約がある中で、中学校区を単位にオンラインで担任どうしが会議等を行い、児童・生徒がオンライン上交流を深めていく機会が増えたことで、小中学校の連携がより容易になった。また中学校区での活動をとおして教職員間の交流がより深まり連携が密になったことで、小学校卒業から中学校入学における生徒一人一人の支援の充実につながった。このことは、「障害のある幼児児童生徒の自立と社会参加を見据え、連続性のある多様な学びの場と切れ目ない支援の充実を図り、一人一人の能力や可能性を最大限に伸ばす教育の充実を目指します」(『第 3 次千葉県特別支援教育推進基本計画』(令和 4 年 3 月)) につながる。

ところで「小中連携」は、中央教育審議会に設けた義務教育学校制度の創設についての検討を行う学校段階間の連携・接続等に関する作業部会から出された報告書（平成 2 4 年 7 月）から見られる。さらに小中連携教育を「小・中学校が互いに情報交換や交流を行うことを通じて、小学校教育から中学校教育への円滑な接続を目指す様々な教育」（文部科学省）と定義づけられている。これには、「中 1 ギャップの緩和など生徒指導上の成果を上げる」ことなどがねらいと

してある。中1ギャップとは、子供自身が感じる小中学校間のギャップであるとともに、その根底にある小中の「教員の意識」の違いやその前提となる（小中）互いの「学校文化」の違いによるギャップである。

また「小中連携」の在り方について、小中学校間に存在する「段差」から論じられている。「小・中学校間の『段差』は、前提としなければならない教育的意味のあるもので、『段差』を無くすことが必ずしも必要ではない」こと、そして「但しそれは『プラスの段差』であって、『マイナスの段差』は子どもたちにとって『あってはならない段差』である。『段差』が現れる『学習面』『人間関係』『生活面』において、小中学校の教員が問題意識の共有化を図り、子供たちが『段差』を乗り越える経験をサポートするために『連携』することが必要であり、『段差』を肯定的に捉え、『段差』の有意点を認め、小・中学校の教員が『段差』に関する意識の共有化を図ることが重要である」（『特別支援学級における小中連携に関する研究の動向と課題 ―小中9年間を見通した系統的な支援体制のための検討―』東京学芸大学紀要（令和4年3月）、「段差」は『研究開発校の手引き』（平成3年5月文部科学省初等中等教育局高等学校課）から用いられている。）

以上のように、白井地区における合同学習会等を始めとする活動をとおして、学校間の連携の創意工夫や連携の方法やあり方を検討していくことが、今後の児童生徒一人ひとりへの切れ目ない支援体制の充実に資するのではないかと考えて本研究主題を設定した。

## 2. 研究の仮説

仮説1「中学校区ごとの学習会を行なうことで、実態に即した創意工夫のある学習活動だけでなく、小中連携をより深めることができるであろう」

中学校区ごとの学習会を企画・運営するにあたって、リーダー、副リーダーを選出して小中学校教職員間で話し合いを行い、実態に応じて、オンラインや対面等いずれの方法でもよく、開催日時や場所を始めとして、活動内容を決定する。

リーダーは実施計画を統一された様式で作成し、データで提出する。さらに実施後に報告書を実施計画同様に統一された様式で作成し提出する。（提出先はTeams「一部会特別支援教育研究部チャンネル」）

上記の方法を踏まえた中学校区ごとの学習会を行なうことで、実態に即した創意工夫のある学習活動だけでなく、教職員間の小中連携をより深めるのではないかと考える。

仮説2「オンラインを取り入れた交流会を行うことで、ICTを適切に利活用した学習活動の充実につながるであろう」

『第3次千葉県特別支援教育推進基本計画』（令和4年3月）では、「幼児児童生徒がICTを正しく使いこなし、自分らしい生き方をしていけるようにするためには、特別支援教育においてもICTの利活用による教育の質の向上が求められます。その際、大切なことはICTを利活用することが目的ではなく、何のためにICTを利活用するのかを明確にしておくこと」とあり、以下の2つの視点を掲げている。

（1）教科指導の効果を高めたり、情報活用能力の育成を図ったりするために、ICTを利活用する視点

(2) 障害による学習上又は生活上の困難さを改善・克服するために、ICTを利活用する視点(自立活動の視点)

オンラインを取り入れた交流会を行うことにおいて、(1)の視点では情報活用能力の育成として、「コンピュータの起動や終了」や「キーボードなどによる文字の正確な入力」、「目的に応じたアプリケーションの選択と操作」を始めとした発達段階に応じた学習活動、(2)の視点では自立活動として、「人間関係の形成」、「コミュニケーション」を始めとした学習活動の充実を図ることができる。

上記のように、オンラインを取り入れた交流会をとおして、ICTを適切に利活用した学習活動の充実につながるのではないかと考える。

### 3. 研究内容

#### 実践① 白井中学校区(白井中学校・間野台小学校・印南小学校)活動計画


	児童・生徒の活動	教職員の行動	仮説との関わり
9月		小中野外学習会(ふれあい交流会) 打ち合わせ (Teams)	仮説1
10月	小中野外学習会 (ふれあい交流会) に向けた準備	小中野外学習会(ふれあい交流会) 共通理解事項等の打ち合わせ (Teams、FAX)	仮説1、2
11月	小中野外学習会 (ふれあい交流会)	小中野外学習会(ふれあい交流会) 共通理解事項等の打ち合わせ (FAX)	仮説1
12月	小中合同学習発表会に 向けた準備	小中合同学習発表会 共通理解事項等の打ち合わせ (FAX、電話)	仮説1
1月	小中合同学習発表会に 向けた準備	小中合同学習発表会 共通理解事項等の打ち合わせ (Teams、FAX、電話)	仮説1、2
2月	小中合同学習発表会 (Teams)	小中合同学習発表会振り返り (FAX、電話)	仮説1、2
3月		小中連携会議(引き継ぎ、連絡)	仮説1

#### 実践内容

##### ○「小中野外学習会(ふれあい交流会)」までの活動計画(内容)

実施日	実施内容	実施方法
9月15日(木)	○職員リモート会議の日程調整	FAX

9月22日(木)	○職員リモート会議 ・ふれあい交流会の実施時期 ・当日の日程、実施場所・内容 ・当日までの予定と役割分担	Teams
10月	○児童・生徒リモート会議の準備 ・自己紹介の練習 ・グループメンバーを決める(各学校) ・活動内容を決める(白井中学校) ○しおりの作成(印南小学校) ○グループ名簿作成(各学校)	各学校
10月28日(金)	○児童・生徒リモート会議 ・グループメンバー、活動内容紹介(白井中学校) ・グループごとに自己紹介(各自) 学校名・学年・名前・好きなもの	Teams
11月4日(金)	○小中野外学習会(ふれあい交流会) ・自己紹介 ・学校紹介(クイズ・発表) ・遊具遊びや白井中生徒が考えた鬼遊び等	対面(七井戸公園)

実践過程	小学校(間野台小・印南小)	中学校(白井中)
導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>・白井中学校区で小中野外学習会(ふれあい交流会)を行うことを児童に伝える。</li> <li>・目的やどんなことをするのか伝え、見通しをもつように声掛けをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・白井中学校区で小中野外学習会(ふれあい交流会)を行うことを児童に伝える。</li> <li>・目的やどんなことをするのか伝え、見通しをもつように声掛けをする。</li> <li>・代表として、はじめの会・終わりの会の司会を行うことを伝える。</li> <li>・各グループのリーダーを決める。</li> </ul>
練習準備など	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己紹介や学校クイズ、学校紹介の内容について考えさせる。</li> <li>・児童生徒リモート会議を行う。</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・代表生徒を中心に、はじめの会・終わりの会役割分担を決め、練習を行う。</li> <li>・自己紹介や学校クイズ、学校紹介の内容について考えさせる。</li> <li>・児童生徒リモート会議を行う。</li> <li>・グループの活動では、司会進行を行う。</li> </ul>

実践  
(当日)

- ・七井戸公園まで徒歩で行くように指導する。
- ・自己紹介や学校紹介（クイズ・発表）をさせる。



- ・グループごとに遊具遊びや公園探検に取り組ませる。



(成果)

- ・学校間で、児童や生徒の情報共有ができた。
- ・ふれあい交流会の前に、Teamsで交流してあったので、人見知りせ

- ・七井戸公園まで徒歩で行くように指導する。
- ・はじめの会、終わりの会の司会進行を行う。



- ・自己紹介や学校紹介（クイズ・発表）をさせる。



(成果)

- ・小学生がいる中で、リーダーとしての自覚をもってふれあい交流会に参加することができた。
- ・バスで遠出することで楽しむのではな

ず、グループ活動に入ることができた。

- ・児童生徒同士の交流ができた。感想発表で、とても楽しかったと答える児童が多く、友達が増えた満足感があった。
- ・新型コロナウイルスの影響で、小中野外学習会（ふれあい交流会）ができていなかったが、久しぶりにできてよかった。

(課題)

- ・学校事情で、校長や養護教諭も児童を引率することとなった。学校内でできるような交流や交流場所、交通手段を考えていくなど、工夫していきたい。
- ・印南小は児童の実態や学校事情で午後は帰校したが、支障がなければ1日楽しんでもよいと思った。

く、歩いていける近場でも、他者と触れ合うことで楽しむことができるという経験になった。

- ・グループ活動が多かったため、グループの代表として小学生の児童をまとめることができた。
- ・司会の役割を担った生徒が、少ない練習ではあったがしっかりと進行することができ、貴重な成功体験となった。

(課題)

- ・中学校は自立活動や生活単元学習よりも教科の学習を優先することが多いため、全生徒が取り組むことは難しい。



実践② 白井南中学校区（白井南中学校・染井野小学校・千代田小学校）活動計画

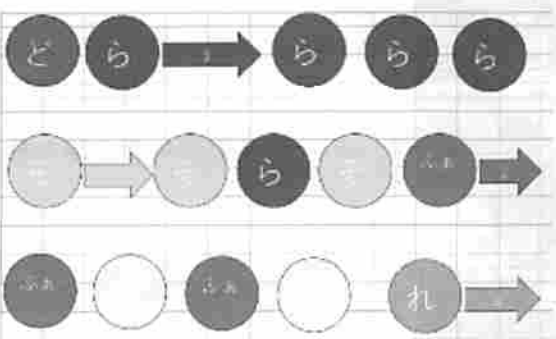

	児童・生徒の活動	教職員の行動	仮説との関わり
9月		小中野外学習会 (ふれあい交流会) 事前打ち合わせ (Teams)	仮説1
10月	各学校自己紹介動画を撮る・見る (Teams)	動画の保存先の連絡 (FAX)	仮説1、2
11月	小中野外学習会 (ふれあい交流会)		仮説1
12月		小中合同学習発表会 事前打ち合わせ (Teams)	仮説1
1月	小中合同学習発表会に向けた準備		仮説1
2月	小中合同学習発表会 (Teams)	小中合同学習発表会 振り返り	仮説1、2
3月		小中連携会議 (引継ぎ)	仮説1

実践内容

○「小中合同学習発表会（卒業を祝う会）」までの活動計画（内容）

実施日	実施内容	実施方法
12月13日(火)	○職員同士の打合せ 話し合った内容 ・各学校の発表（最大5分間） ・オンラインで会を行う ・小学生から中学生に向けてプレゼント・中学生から・小学生に向けてプレゼントを作成する	Teams
12月中旬から	各学校が発表会の練習及び準備 発表内容を動画で撮影し改善点などを話し合う	各学校
2月初旬	小学生から中学生に向けてプレゼント・中学生から・小学生に向けてプレゼントを作成する	事前に各学校へ届ける
2月27日(月)	「小中合同学習発表会（卒業を祝う会）」	Teams



過程	小学校（染井野小・千代田小）	中学校（白井南中）
導入	<p>・白井南中学校区で学習発表会をオンラインで行うことを伝え、見通しをもたせた。また、卒業を祝う会も行うことを伝えた。</p>  <p>・本校ではビリーブをハンドベルで演奏することを伝えた。楽譜の色を子どもが使うベルの音を統一し視覚的にわかりやすくした。（上記が楽譜の一部）</p> <p>・音楽専科に協力をしてもらい、4人の子どもで演奏できる音域に設定した。</p> <p>・白井南中学校区で学習発表会をオンラインで行うことを伝え、見通しをもたせた。また、卒業を祝う会を行うことを伝えた。</p> <p>・本校では、一人ひとりが「できるようになったことや得意なこと」を披露することを伝えた。動画撮影をする日にちを伝え、それまでに準備や練習ができるように見通しをもたせた。</p> <p>・児童一人ひとりの実態に合わせた内容を教師と一緒に考え、学びにつながるようにした。</p> <p>〈児童の披露した内容〉</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①ボード作り</li> <li>②縄跳び</li> <li>③イラスト描き</li> <li>④音読</li> <li>⑤料理</li> <li>⑥跳び箱</li> <li>⑦マット運動</li> </ol>	<p>・白井南中学校区で学習発表会をオンラインで行うこと、中学生の役割分担を伝え、見通しを持たせた。また、同時に卒業を祝う会を行うことを伝えた。</p> <p>・本校伝統のすばる太鼓を発表することを伝えた。過去の学習発表会での発表映像を見て実際の様子を知り、意識づけをした。</p> 

練習  
準備  
など



- ・学習発表会へ向けて演奏の練習をする。
- ・児童が自分の力で披露することができるように、児童の実態に合わせて支援した。
- ・卒業を祝う会で役割のある児童は、各自で練習をした。

・学習発表会の流れを伝え、生徒が司会や発表などの分担を考えた。また、生徒自身が中心となって司会や発表の練習を行うなど事前準備をした。

・すばる太鼓では、リズム打ちができる3年生を中心に練習し、全員が覚えられるように繰り返し活動を行った。

実践  
(当日)

・オンラインで他校と交流することができた。また、事前に録画した各学校の動画も見ることができ子どもたちは見入って楽しそうにしていた。



・6年生は、進学する中学生からプレゼントをもらい、進学に対する不安が少なくなり希望をもてた。



・会の司会進行を生徒が行い、3校合わせた活動の中心になることができた。小学生から返されるダイレクトな反応に喜んで応答する姿が見られた。自分たちの思い通りに会を運営できたことが自信につながったようである。



・夏から練習を重ねてきた「すばる太鼓」を披露することができた。



・3年生は、卒業の言葉やお礼の言葉をしっかり述べ、進学への自覚がわいたようであった。



- ・オンラインで他校と交流することができた。画面上で手を振り合うなど、楽しんでいた。
- ・学習発表の動画は、他校の動画だけでなく、自分たちの動画も楽しんで観ることができた。様々な発表の仕方があることを学ぶことができた。
- ・卒業を祝う会は、落ち着いた態度で参加することができた。卒業生は、進学先の中学校からプレゼントをいただいたり、在校生からお祝いのメッセージを受け取ったりして、自分の成長を感じたり、進学への希望をもったりしているようだった。在校生も、将来の希望をもっているようだった。

(成果)

- ・学習発表会へ向けて、演奏を他校へ発表する目的が明確にあったので意欲的に取り組めた。また、練習することを通して子ども同士の仲が深まった。
- ・学習発表会は事前に録画をしておいた発表を当日は各学校で見る形だったので、子どもたちは慣れ親しんでいる環境で練習し録画をすることができた。当日は安心して楽しむことができた。
- ・録画形式の学習発表だったので、児童一人ひとりの実態に合わせて練習から王が撮影まで進めることができた。



(成果)

- ・初めてのことながら中学生が主導する形で運営できた。司会や発表などリーダーとして多くの経験をすることができ、生徒たちにとって良い経験になった。
- ・コロナ禍で小中合同学習会の機会がない期間がここ数年続き、リーダー活動をする機会がないままになっていたが、今回、久しぶりに中学校区での活動ができ、小学生に伝えたいという思いを原動力にして活動することができた。

<ul style="list-style-type: none"> <li>・動画は、テレビでよく見ることができ、オンラインならではの良さがあった。</li> </ul> <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中学生の受験のタイミングと重なる可能性が高いため、ふれあい交流会も含め卒業を祝う会(学習発表会)の実施する日には検討が必要である。</li> <li>・各学校での発表時間の長短があったため、学習発表会では、事前に発表時間のある程度決めておくとうい。</li> <li>・より交流が深まるように、今後内容を工夫していきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・すばる太鼓は事前に録画しておいたものを用いての発表であったため、当日は落ち着いて会の運営に専念することができた。</li> </ul> <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・直前まで中3生の受検があり、全員そろって司会や発表の練習をすることができなかった。実施する時期は検討が必要である。</li> <li>・良い交流の機会にできるよう、内容についてはさらに検討をしていきたい。</li> </ul>
---	---

③白井西中学校区(白井西中学校・白井小・王子台小学校)活動計画


	児童・生徒の活動	教職員の行動	仮説との関わり
9月		小中野外学習会(ふれあい交流会) 事前打ち合わせ (Teams)	仮説1, 2
10月	小中野外学習会 (ふれあい交流会) に向けた準備	小中野外学習会(ふれあい交流会) 職員間の共通理解 (メール)	仮説1
11月	小中野外学習会 (ふれあい交流会)	小中合同学習発表会 事前打ち合わせ (Teams)	仮説1, 2
12月	小中合同学習発表会 に向けた準備	小中合同学習発表会 職員間の共通理解 (メール)	仮説1, 2
1月	小中合同学習発表会 に向けた準備	小中合同学習発表会 職員間の共通理解 (メール)	仮説1, 2
2月	小中合同学習発表会 (Teams)	小中合同学習発表会振り返り	仮説1, 2
3月		小中連携会議(引継ぎ、連絡)	仮説1






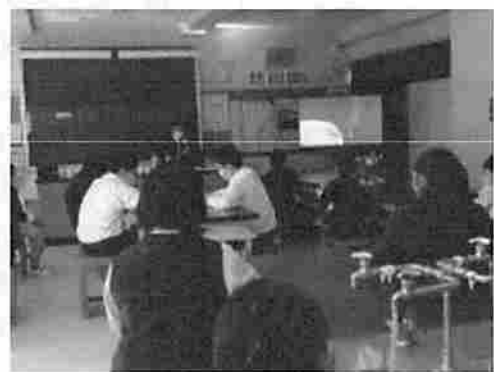


実践内容

○「小中野外学習会（ふれあい交流会）」までの活動計画（内容）

実施日	実施内容	実施方法
8月 8日(月) 21日(月) 30日(火)	○Teamsによる職員同士の打合せの準備 ・実施時期 ・実施内容・方法 ・Teamsによる職員同士の打合せ実施日確認	FAX
9月 1日(木)	○職員同士の打合せ 話し合った内容 ・実施日時（11月2日(水) 9:30～11:00） ・白井中学校で行う。（自己紹介、中学校案内・見学、中学校授業体験（理科））	Teams（オンライン）
9月中旬から	○職員同士の共通理解 ○各学校が自己紹介の内容及び発表準備 ○中学校案内準備（パワーポイント）	FAX、メール
11月 2日(水)	「小中野外学習会（ふれあい交流会）」 ・自己紹介 ・中学校案内（生徒作成によるパワーポイント） ・中学校校内見学 ・体験授業（物理分野（光の性質）） 「光るスライムを作ろう」	対面（白井西中学校）

過程	小学校（白井小・王子台小）	中学校（白井西中）
導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>・白井西中学校区でふれあい交流会を対面で行うことを伝え、見通しをもたせた。</li> <li>・白井西中学校への行き方の確認。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・白井西中学校区でふれあい交流会を対面で行うことを伝え、見通しをもたせた。</li> <li>・中学校授業体験の中での「光るスライム作り」を小学生に支援できるように、実際のスライム作り。</li> </ul> 

<p>練習 準備 など</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己紹介の内容を考えさせる。 (書けるところまで書くよう支援)</li> <li>・発表の練習(発声や姿勢)</li> <li>・実態に応じて自己紹介の発表内容の暗記。</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己紹介の内容を考えさせる。</li> <li>・パワーポイントで中学校校内を作成する支援。 (タブレット端末を用いて校内撮影、パワーポイントの作成方法等)</li> </ul> 
<p>実践 (当日)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・白井西中学校へ徒歩移動。 (交通ルールを守る等支援する。)</li> </ul>   <p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ふれあい交流会に向けて、自己紹介をする目的意識が高まった。また、自己紹介の発表練習することとおして中学生との交流への意欲を持たせる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・白井中学校で小学生を迎え、中学校案内。見送り。</li> </ul>   <p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ふれあい交流会に向けて、小学生をもてなそうとする意欲を持たせることができた。</li> <li>・小学生に「光るスライム作り」を支援</li> </ul>

<p>ことができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ふれあい交流会当日は天気にめぐまれ小学校から安全に徒歩で往復することができた。</li> <li>・中学生との交流を楽しみ、中学校の様子を知ることができた。</li> <li>・中学校の授業体験をとおして、6年生は自分の入学後の姿をイメージすることができた。</li> </ul> <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・屋外で自己紹介を行ったため、自己紹介の声がお互い聞きづらい場面があったので、校舎内でするなどの工夫が必要である。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症防止のため十分な中学校内の見学ができなかった。</li> </ul>	<p>することができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・訪問してきた小学生に笑顔で中学校校内の案内ができた。</li> <li>・小学生との交流を楽しみ、体験授業で号令をかけることで、ふだんの中学校での授業の取り組み方への再確認ができた。</li> </ul> <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・屋外で自己紹介を行ったため、自己紹介の声がお互い聞きづらい場面があったので、校舎内でするなどの工夫が必要である。</li> <li>・パワーポイントで中学校校内を作成したものの、プレゼンテーションなどもっと改善すべき点があった。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症防止のため十分な中学校内の案内ができなかった。</li> </ul>
---	---

#### 4. 結論

##### (1) 考察

仮説1「中学校区ごとの学習会を行なうことで、実態に即した創意工夫のある学習活動だけではなく、小中連携をより深めることができるであろう」

従来の中学校12校、小学校25校の地区別に分けた5つのブロックの活動から中学校区での活動になり、実施計画も中学校区ごとに実態に即した内容になった。さらに中学校区としての実施で範囲が狭まったことにより、小中学校教職員間の交流が容易になり、連携が密になった。このことが、小学校卒業時前後に行われる情報交換としての「小中連絡会」の充実が図られ、小学校卒業から中学校入学における生徒一人ひとりの支援の充実につながる一助となった。

そして、Teams（オンライン）の「一部会特別支援教育研究部チャンネル」の活用によって、統一された実施計画や報告書を中学校区相互で閲覧できるようになり、次年度以降への改善策としての資料となった。

仮説2「オンラインを取り入れた交流会を行うことで、ICTを適切に利活用した学習活動の充実につながるであろう」

オンラインを取り入れたことにより、中学校区を単位に担任どうしが会議等を行ったり、準備段階から児童・生徒がオンライン上で交流を深めていく機会が増えたりしたことで、小中学



校の連携がより容易になった。

オンラインを取り入れた交流会を行うにあたりタブレット端末を使用した。これは、佐倉市内の小中学校においてGIGAスクール構想実現による児童生徒一人ひとりに貸与されたICT機器である。タブレット端末を操作することに関心を持ったことで、ICTの利活用が容易になっただけでなく、情報活用能力の育成に人間関係の育成、コミュニケーション力の育成など自立活動の充実にもつながった。さらにはオンラインの利点であるテレビ電話により、児童・生徒お互いの顔が見える、声が聞こえることで、遠隔でも対面しているような臨場感を味わうことができた。

## (2) まとめ

本提案は、新型コロナウイルス感染症の影響下で、白井地区における中学校区を単位にした、従来の活動内容を見直す中での学校間の連携を小中合同学習会等の実践を事例として提示したものである。オンラインで担任どうしが会議等を行い、中学校区の実態に応じてオンライン上での学習会（白井中学校区（対面でも実施）、白井南中学校区）、対面での学習会（白井西中学校区）を紹介した。

いずれの活動でも、5つのブロックの活動から中学校区での活動になり、より校区としての範囲が狭まり、各小中学校教職員間の交流が容易になっただけでなく、オンラインを取り入れたことにより、従来よりも時間的・場所的制約から自由になれた環境の中で会議等が容易にできた。さらに、準備段階からの児童・生徒がオンライン上で交流を深めていく機会が増えたことで、児童・生徒にとっての小中学校間の理解がより容易になっただけでなく、ICTの利活用をとおして、情報活用能力の育成や自立活動（障害による学習上又は生活上の困難さを改善・克服するためのICTを利活用した学習活動）の充実を図ることができた。

今回、新型コロナウイルス感染症の影響下で、従来の活動内容を見直す中で再び学習会を行う方向へとなり、いくつかの変更点をとおして中学校区で実施した。結果として、小中学校教職員間の連携や中学校区における小中学校間の児童生徒の交流が容易になった。このことが、学校間の連携の強化につながり、一人ひとり児童生徒に応じた切れ目ない支援体制のヒントになった。

## 5. 参考・引用文献

- ・『新しい時代の義務教育を創造する（答申）』中央教育審議会（平成17年10月）
- ・『小中連携、一貫教育に関する主な意見等の整理』中央教育審議会（平成24年7月）
- ・『特別支援学校 小学部・中学部学習指導要領』文部科学省（平成29年4月告示）
- ・『教育の情報化に関する手引』文部科学省（令和元年12月）
- ・『教育の情報化に関する手引』追補版 文部科学省（令和2年6月）
- ・『第3次千葉県特別支援教育推進基本計画』千葉県教育委員会（令和4年3月）
- ・『小・中学校連携に係る効果的な取組事例集』兵庫県教育委員会（平成25年2月）
- ・『特別支援教育推進資料 将来までつなごう支援と相談のバトン』仙台市教育委員会（平成28年3月）
- ・『学校間連携の充実のために～切れ目ない支援の充実を目指して～』鹿児島県教育委員会（令和3年3月）
- ・『中1ギャップに関する研究－小中連携・一貫教育のあり方を中心にして－』兵庫教育大学大学院学校教育研究科（平成21年）
- ・『小・中学校間の「段差」の教育的意義を踏まえた小・中「連携」のあり方』  
鳴門教育大学学校教育研究紀要第29号（平成27年）
- ・『小中連携・一貫教育の研究動向1 －2015年までの研究動向－』多摩大学研究紀要「経営情報研究」No.23（令和元年）
- ・『特別支援学級における小中連携に関する研究の動向と課題 －小中9年間を見通した系統的な支援体制のための検討－』  
東京学芸大学紀要 総合教育科学系 第73集（令和4年）